

新・八幡の歴史 3回目

前回は縄文、弥生、古墳それぞれの時代の墓のお話でした。弥生時代、墓に副葬品として木偶をいれた。それは神がよりつく依代(よりしろ)として、「森羅万象に神や魂が宿るという考え方」が既に芽生えていたのか？と。これが明治の廃仏毀釈のもとの考え…国家神道へ向かったのではないか、というお話が特に、記憶に残っている。

古墳時代、八幡では男山団地の開発で現在の男山三中辺りの茶臼山古墳や鉄塔が立っている石不動古墳、八角堂の西車塚古墳(八幡で唯一残っている古墳)のことを詳しく話された。副葬品が盗掘されて八幡にほとんど残っていないとのこと。興味深く聞きました。

- ① 日時 2018年5月31日(木) 13時30分～
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円

新・八幡の歴史3回目です。新しくスタートしています。前のお話と違う部分も話されるそうです。



(愛知県清州町 朝日遺跡 木偶 ネット検索より)

八幡まるごと館 / 八幡市男山松里12-20

(TEL&FAX) 075-983-3664

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土日午後です。